

【和鉄の道 2025】【鉄の話題 隕鉄鉄器の復元】インターネット掲載の整理転記
宇宙の賜物・隕鉄を素材とする原始鍛冶の復活へ
人類・鉄創世記プロジェクト 活動報告【5】

隕鉄鉄器の研磨を進めています 2025年10月31日

人類・鉄創世記プロ リーダー 愛媛大学教授 村上恭通

<https://readyfor.jp/projects/meteorite/announcements/401550>



しばらくの間ご無沙汰しておりました。その間、モンゴルでの発掘調査、島根県安来市や大分県国東市での古代製鉄実験、そして中国・四川大学への出講などで慌ただしくしておりました。

そして現在、隕鉄鉄器の復元作業に復帰しております。

復元作業は、隕鉄鍛造については現在松山で復元しているものを除くと、あと1点となりました。

これは11月下旬より広島の上高慶刀匠の道場で実施します。

現在は事情があって、松山の鍛冶工房が使用できず、もっぱら研磨作業を行っております。

隕鉄鉄器は鍛造も個体によって造形しやすかったり、難しかったりとさまざまですが、鍛造が終わったあとの表面も素直な鉄地を見せる場合もあれば、何かべったりと黒い皮膜が付着したような状態になるものもあります。

通常の鋼の鍛造の場合、表面から鍛造剥片が飛散します。

鍛造剥片を意図的に丁寧に落とせば表面はきれいになります。

ところが隕鉄の表面は鍛造剥片の飛散はわずかです。

また個体によって黒い皮膜が全くとれないのです。したがってできる限り砥石や鑢で研磨して仕上げようと努力しています。しかしなかなか落ちません。隕鉄の輝きをお目にかけるためにもうしばらく努力したいと思います。

さて、11月6日に愛媛大学先端研究院(PIAS)が定期的で開催しているセミナーで、この9月のモンゴルにおける発掘調査について「モンゴル古代遊牧民と鉄生産—アルタイ発掘速報—」と題してZoomでお話しすることとなりました。

時間は16:00~16:30で30分間とたいへん短いですが、

モンゴル・アルタイでの調査の雰囲気をお届けすることができればと思っています。

参加ご希望の方は<https://forms.office.com/r/kvLC5utjkY>にて登録をお願いします。

隕鉄製鉄器の完成にはもう少し時間を要し、その後金属分析等を実施して成果のとりまとめにかかります。

予定よりも少し進捗が遅れていますが、これにつきましては改めて支援いただいたみなさまにお伝えしたいと思います。



【和鉄の道 2025】【鉄の話題 隕鉄鉄器の復元】インターネット掲載の整理転記

人類・鉄創世記プロジェクト 活動報告【5】

5. 隕鉄鉄器の研磨を進めています 愛媛大学教授 村上恭通 2025年10月31日発信

2025.10.31.発信

■ 人類・鉄創世記 宇宙の賜物・隕鉄を素材とする原始鍛冶の復活 活動報告【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】

■ 和鉄の道・Iron Road Top Page : <https://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/>